

平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」


事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 京都府 】

学校名【 京都府立向日が丘支援学校 】

1 実践テーマ	【 III V 】
2 実施対象者	京都府立向日が丘支援学校 小学部児童43名、中学部生徒44名、高等部生徒58名 合計145名
3 展開の形式	<p>(1) 学校における活動</p> <p>① 教科名（ 特別活動、体育 、クラブ活動 ）</p> <p>② 行事名（ 「むこうがおかフェスタ」(学校祭)・高等部交流ひろば・中学部長岡第二中学校との交流学习 ）</p> <p>③ その他（ ）</p> <p>(2) 地域における活動</p> <p>① イベント名（ 南山城支援学校ボッチャ大会、京都市障害者スポーツ振興会ボッチャ大会 ）</p> <p>② その他（ 向日市卓球バレーチームとの交流練習会、長岡京市卓球協会さんとの卓球部の交流練習会 ）</p>
4 目標 (ねらい)	ボッチャや卓球バレー等の障害者スポーツを通じて中学校、高等学校との交流及び共同学習を充実させるとともに障害者スポーツの発展に寄与する。また、オリンピック・パラリンピックについて関心を持ち、取り組んでいくとともに、各種大会に参加し、共生社会の実現を図る。
5 取組内容	<p>高等学校生との「高等部交流ひろば」に、京都府立乙訓高等学校・京都府立西乙訓高等学校・京都府立洛西高等学校・京都府立桂高等学校・京都府立向陽高等学校が参加し、今年度も充実した取組みとなった。取組内容の充実を図れるよう、事前に各校の代表の生徒と教員が打合せを2回実施した。活動にボッチャやスポーツ吹き矢等を取り入れて、本校高等部生がルール説明をし、チームを組んで対戦を楽しんだ。</p> <p>「むこうがおかフェスタ」(学校祭)において、トヨタカローラ京都さんのご協力を得て、「ボッチャを楽しもう」コーナーを設けて、本校児童生徒や来校者が参加しボッチャに親しむことができた。</p> <p>南山城支援学校主催の「ボッチャ交流大会」、京都市障害者スポーツ振興会主催の「ボッチャ大会」「フライングディスク大会」に参加した。</p> <p>近隣中学生との交流として、例年長岡京市立長岡第二中学校との交流学习を実施している。ボッチャを取り入れて交流を図るよう、事前学習も行い、本番に臨んだ。</p> <p>南山城支援学校ボッチャ大会や、京都市障害者スポーツ振興会ボッチャ大会に参加し、ボッチャを通じて参加者とも交流を深めることが</p>

	<p>できた。また、3月には向日市社会福祉協議会主催の「ポッチャチャレンジ」にも参加した。</p> <p>また、地域の卓球バレー協会、卓球協会と本校地域社会連携部の連携により、高等部生徒と練習会を開き、技術面での指導をいただくとともに、交流を深めることができた。</p>
<p>6主な成果</p>	<p>高等学校生との交流「交流ひろば」は、本校高等部生にとって、ポッチャなどの活動を通して交流を深めることができ、ポッチャを通して障害者スポーツの楽しさ、面白さを高校生に伝えることができた。</p> <p>また、高等部生が、高校生にルールを説明したり、作戦を一緒に立てたりすることによって、自信を持って活動ができた。</p> <p>二つのポッチャ大会に参加することで、技術面はもちろんのこと、相手チームとの交流も深めることができた。ポッチャを通して地域との交流をさらに広げていきたい。</p> <p>さらに、地域の卓球バレー協会や卓球協会と練習会を通じて、支援学校についても理解を深めることができた。卓球バレー協会の方は、「むこうがおかフェスタ」(学校祭)にも来校され、ポッチャにも参加し、さらに交流を深めることができた。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around; align-items: center;">  </div>
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<p>高校生との交流「交流ひろば」においては、事前打合せを綿密にすることにより、交流を目的とした取組を検討できた。中学生との交流学習においても、中学生が本校を訪れてお互いをより知る事前学習を行うことによって、より相互理解が深まった。</p> <p>また、地域の卓球バレー協会、卓球協会とは今年度から立ち上げた地域社会連携部を中心に連携し、練習会を実現することができた。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>ポッチャやフライングディスクをより日常的に取り入れていくことにより、各大会に積極的に参加を呼びかけていく。それぞれの学部で、体育、特別活動、あそびの指導などの教育課程に障害者スポーツをより取り入れていけるよう検討を進めていく。</p> <p>また、来年に控えたオリンピック、パラリンピックへの応援の取組を積極的に進めていく。</p>
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<p>ポッチャ、フライングディスク、卓球バレーなどの障害者スポーツの取組を通して、地域との交流を深めていけるよう計画を進める。障害者総合スポーツ大会に向けて地域の資源を有効活用していく。</p>